

## 日米韓首脳会談、識者の見方 (1面参照)

神田外語大の阪田恭代教授



日米韓首脳会談の歴史の中で今回は特別な意味があった。国際会議の場だけでなく

単独で開催し、バイデン米大統領は「キャンペーンデブッド」を選んだ。指導者同士の信頼関係を内外に示した。共同声明で3カ国の協力分野を深化させた。首脳から実務者まで協力の継続を「制度化」し、質が高まった。

### 合意、日韓のかがみに

問題は合意した協議の仕組みが機能するかだ。北朝鮮のミサイル情報の即時共有は喫緊の課題で、北朝鮮対応が3カ国連携の「一丁目一番地」であることは変わらない。

民主主義国家である日米韓に政権交代は起こり得る。政治に嵐が来ても今回の合意が土台となり、3カ国で危機対処しやすくなる。持続性のある関係構築にも役立ち、日韓が新たな合意文書をつくる際のかがみにもなる。

※無断での複製・転載を禁じます